

営農支援課、宮代地区担当TACの小豆澤です。

今回は宮代地区にて新たな取り組みとしてご紹介していた、水稻の流し込み施肥についてご報告します。

宮代地区では、近年の夏場の高温により米の品質低下が問題となっていました。このため、高温障害対策の一つである追肥を『流し込み施肥』という作業方法で、今年JAと出荷契約を結んでいる方々を中心にご紹介しました。

『流し込み施肥』とは、水田の水口からかん漑用水と一緒に溶けやすい顆粒状の肥料を溶かして流し入れる施肥方法で、作業者が水田の中に入らずに施肥が出来るという省力的な作業方法です。この方法により、夏場の暑い時期の作業でも田んぼに入らずにすみ、また水口に肥料を置いて流し込むだけの作業なので、流し入れている間に他の作業ができるといったメリットがあります。

この流し込み作業を今回は『ニトライム』という肥料でご紹介させていただきます。

『ニトライム』は、窒素が14%、カルシウムが26.3%入った肥料です。これを『出穂開花後』に10aあたり10kgを流し込みすることで、収量・食味の向上に繋がります。また、カルシウム分が実（み）に直接栄養分を運搬する役割をしてくれますので、高温障害による乳白米等を軽減し、同時に根張りを良くするので倒伏軽減にもなり、品質の向上にも繋がります。

今後はこのような情報を、訪問時や宮代営農経済センター窓口等で提案・資料提供を行い、宮代の組合員の方々のお役にたてるよう精進していきたいと思います。

